

発

# ふみがえる 秀忠の靈廟

米軍の空襲で灰になった江戸の文化財の中で代表例といえるのが、国宝に指定されていた徳川幕府二代将軍秀忠の靈廟である。日光東照宮の社殿のひな型にもなった絢爛豪華な建築だった。英国で忠実に再現された模型が発見され、待望の里帰りを果たした。

## 増上寺 空襲で焼失

浄土宗の大本山で徳川家の菩提寺・増上寺(港区芝公園)に来月二日、新たな宝物展示室がオープンする。目玉は、明治後期の彫刻家・高村光雲らが監修した「台徳院殿靈廟」の模型だ。

靈廟は一六三二年、三代将軍家光が父秀忠の墓所として増上寺に造営した。桃山時代の様式を継承し、本殿、拝殿、透塀などからなる。増上寺によると、四年後に建てられた日光東照宮の主な社殿のひな型になったとされ、同じ棟梁や職人が携わっ

## 英で発見 模型が里帰り



靈廟模型(Royal Collection Trust/© Her Majesty Queen Elizabeth II 2015)の復元に尽力したウィリアム・コールドレイクさん(左)と、増上寺執事長の友田達祐さん

た。一九三〇(昭和五)年に国宝に指定されたが、四五年五月の空襲で焼失した。

「明治の東京では最も重要な文化財であり、東京の誇りだった。現存すれば世界遺産になったはず」

在日オーストラリア人で江戸初期の建築物を研究するウィリアム・コールドレイクさん(左)と東大特任教授が語る。コールドレイクさんは

九六年四月、この靈廟の模型が英国文化財保存財団の倉庫に解体、保存されているのを発見した。

模型は実物の十分の一のサイズで、幅四尺、奥行六尺、高さ一・八尺。一九一〇(明治四十二)年、ロンドンで開かれた日英博覧会に「東京を代表する建築物」として、当時の東京市が出品した。

製作は、東京美術学校(現東京芸

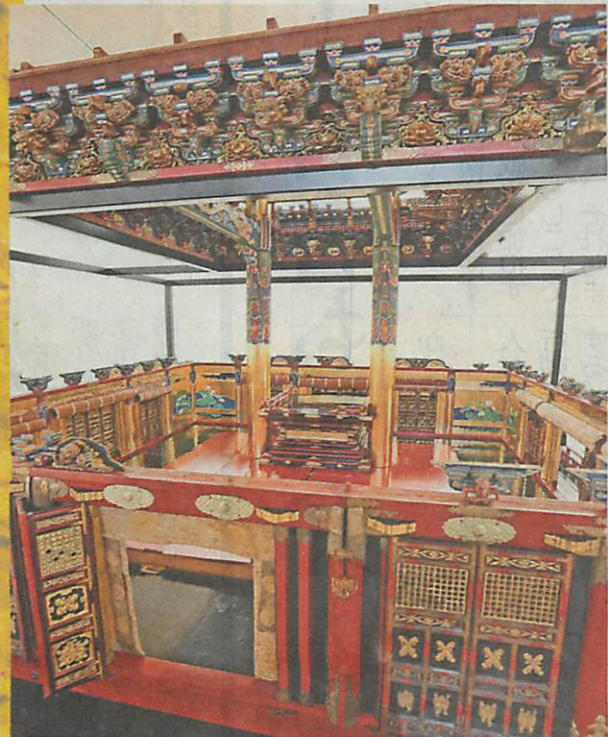
大)に依頼した。高村光雲のほか、建築家の古宇田実ら一流の教授が、監修にあたる。極楽浄土を思わせる本殿の内部のクジャクやハスの花の絵、漆を塗った上に金箔を貼った壁面など、華麗な装飾を実物と同じ技法と材料で再現した。

靈廟は博覧会終了後、英国王室に寄贈され、ロイヤルコレクションとなった。コールドレイクさんは、その行方を追跡していた。

「明治の最高レベルの美術工芸品であり、当時の国宝を精密に記録している。模型の里帰りで、日本人には戦争で受けた傷を少しでも癒やしてほしい」

エリザベス女王から、増上寺へ長期貸与されることになった。昨年四月、バラバラになった模型が増上寺に到着。コールドレイクさんは、自ら復元プロジェクトのコーディネーターを務め「立体的なジグソーパズルを組み合わせるように」博覧会当時のままの姿に組み立てることに成功した。

家康没後四百年と戦後七十年という節目の年、増上寺にとっては大きなプレゼントとなった。寺の友田達祐執事長(右)は「模型という言葉から『形だけ模したものだ』と思っていたが大違い。ゆかりの年に里帰りが実現したのも、仏教的に言えば機縁が熟したといつことでしょう」と話している。



台徳院殿靈廟模型(Royal Collection Trust/© Her Majesty Queen Elizabeth II 2015)の本殿下部を特別の許可を得て撮影した。華麗な装飾を実物と同じ技法と材料で再現している